

経営情報学会 2018 年秋季全国研究発表大会

大会実行委員会：津田 博 近畿大学
布施匡章 近畿大学
森田裕之 大阪府立大学
大内紀知 青山学院大学
後藤裕介 岩手県立大学
渡邊真治 大阪府立大学

2018 年秋季全国研究発表大会は、10 月 20 日・21 日の両日、近畿大学東大阪キャンパスにおいて、「AI 時代における高付加価値化」を大会テーマとして開催されました。

大会は、同キャンパスのアカデミックシアター（文理の垣根を越えて、社会の諸問題を解決に導くための学術拠点として 2017 年 4 月にオープンした 1～5 号館からなる全面ガラス張りの複合施設）を使い、1 日目は開会式、表彰式、基調講演、特別セミナー、研究発表大会、企業事例セッション、学生ポスターセッションが行われ、2 日目は特別講演と研究発表会が行われました。天候にも恵まれ、会員・非会員合わせて、160 名の参加者が集う盛会となりました（写真1）。

1. 基調講演と特別講演

大会 1 日目は開会式の後に国立情報学研究所教授兼総合研究大学院大学教授で一般社団法人人工知能学会前会長・顧問の山田誠二氏に「人工知能 AI の現在と豊かな社会づくりに向けて」と題して、ご講演下さいました（写真2）。

2 日目の午後に行われました特別講演では、京都大学経営管理大学院准教授の山内裕氏から「サービスの相互主観的闘争とデザインへの含意」と題して、ご講演下さいました（写真3）。

2. 企業事例セッション

1 日目に行われました企業事例セッションでは、1 件の特別講演と 6 件の事例発表がありました。特別講演は、株式会社エルプズの田中秀樹氏から「20 年後、高齢者の AI 活用はどのようなものになる



写真1 開会式



写真2 講演する山田氏



写真3 表彰される山内氏



写真4 表彰される園田氏

か？」と題して、ご講演下さいました。

事例発表では、活発な議論が交わされました。聴講者の評価を踏まえ大会委員長から、「経営情報学会2018年秋期全国研究発表大会企業事例セッション優秀報告賞」として、園田垂斗夢氏の「アパレルECサイトにおける説明文自動生成」を表彰しました（写真4）。

3. 学生ポスターセッション

大会初日の午前中には2つのセッションにわかれ、25件の学生ポスター報告が行われ、報告者と来場者間で熱心で活発な質疑応答がなされました。その後の審査の結果、学生優秀発表賞として4件の発表が選ばれました。

4. 特別セミナー

大会企画として1日目の午後には東京工業大学工学院経営工学系教授飯島淳一氏による特別セミナー（チュートリアル）「デジタル変革への備えを測るDRA（Digital Readiness Assessment）とその基礎にあるIT-CMF（Capability Maturity Framework）」が2時間にわたって開催され、多くの参加者がDRAとIT-CMFについて学びました。

5. ランチョンセミナー

ランチョンセミナーでは、初日の昼休みの時間を有効に活用していただこうと、NTTデータ数理システムの山本和寛氏から「数理システム分析ツ-



写真5 会長 木嶋恭一とマグロ



写真6 閉会の挨拶

ルのご紹介 数理最適化入門と実社会への適用事例～」というテーマで昼食が提供されるセミナーを開催していただきました。定員50名での開催でしたが、早々に定員に達するなど、大変盛況でした。

6. 一般報告

2日間を通じて、以下のセッションにわかれ、報告と活発な質疑応答が行われました。

1日目：政府・自治体、情報化社会、経営戦略、イノベーション、組織、ビジネスモデル、データマイニング・ナレッジマネジメント、情報システム

2日目：マーケティング、人材能力開発、イノベーション、研究会「IT-CMF研究会」、研究部会「官の情報システム研究部会」

7. 懇親会

大会初日の夜、アカデミックシアター内のラウンジを貸し切り、懇親会を行いました。次回大会の開催校である千葉工業大学の井上教授から紹介がありました。

懇親会の料理は、近大マグロ（1匹40kg）が提

供されたことで、懇親会の場を大いに盛り上げてくれました（写真5）。

2018年秋季全国研究発表大会を盛況のうちに終了することができたのは、木嶋会長をはじめスタッフ一同、学会理事、発表会の座長はじめすべての関係者のご尽力の賜物と感謝申し上げます（写真6）。